

大草谷津田いきものの里 自然観察会

6月の草花

松本美千代（千葉市）

日 時：2010年6月6日（日）10時30分～12時 天候：晴

参加者：子ども9名 大人18名 計27名

担当指導員：芳我めぐみ 松本美千代

天気良く日差しが強い。参加者たちは自然に詰め所の建物の影に集まり、注意事項を聞くというかたちになった。

～広場入口～

- ・ヒメコウゾの枝のあちこちに、ジョロウグモ（子グモ）が小さいけれど親と同じような複雑な網を張っているのを観察。[21年12月のジョロウグモの♀と卵のう、22年6月2日孵化した子グモのまどい（集まり）]の写真を見てもらう。
- ・ドクダミの花の観察。白い花びらに見えるものは総苞というので中心部が花の集まりで、めしべ・おしべがあるが花びらはないと説明する。



～涼しい杉林の中～

- ・フタリシズカの花の観察。名前の由来と花の構造を用意してきた絵で説明する。3本でも5本でもフタリシズカ！！

～“めじろんば”を出た湿地～

- ・オヤブジラミの実（くつき虫）の鉤状のとげをルーペで観察する。
- ・ハルジオンの花の上、ホソヒラタアブが来ていた。幼虫はアブラムシを食べると説明。

～斜面林～

- ・エゴノキ・コナラ・シラカシでオトシブミの揺籃（ゆりかご）を発見。用意してきた大草のゴマダラオトシブミがコナラの葉で“おとしぶみ”を作る様子を写真で見せる。ちょうどヒメクロオトシブミの成虫を見つける。このオトシブミがコナラで作った小さな揺籃を観察する。枯れた葉っぱを食べて育つかと心配している参加者もいた。
- ・向いの斜面林のヤマボウシの白い花が目立つが、いざそこへ行ってみると通り過ぎてしまう。近くに寄り、白い花弁に見えるのは苞で、真中の球状のものが本当の花であることを確認する。ガマズミもヤマボウシの花も花粉を運んでもらうため、離着陸のへたな甲虫のために適した形になっていると話す。

～水辺～

- ・子ども達に人気のある自噴井にさわってみたり（はまつたり！？）する子も。常連の捕虫網を持った子どもは、シオヤトンボ・ニホンカワトンボ等、次々捕まえて翅を上手にもち、皆に見せてくれる。たくさんのオタマジャクシ、アメンボ、ヒメモノアラガイ、シオカラトンボの♂♀、ヒメウラナミジャノメを見る。ホタルがいたと持ってきて見せてくれた。ヒゲナガハナノミの♀だった。

～大草で一番の景色～

- ・カラスも食べているという桑の実。大人も子供も皆で少しずつ味わう。
- 《ここから見る景色が一番！！》という場所で田植えが終った谷津田を眺め、観察会を終える。

